

世界史プリント(5-6) 生徒番号()氏名_____

第11章 3. フランス革命とナポレオン c. 戦争と共和政

①1791,6 国王の逃亡未遂事件([1 **ヴァレンヌ**]事件)により国王への信頼失墜

↓
1791,7 立憲君主派、共和政をもとめるパリ民衆に発砲(シャン・ド'マルスの虐殺)→革命派内の分裂
→立憲君主派は2_ **革命の進展** _を望まなくなる=[3 **王権擁護**]の方向へすすむ

②1791,9 1791年の憲法発布…[4 **国民**]議会解散→[5 **立法**]議会開催

- ・[6 **一院**]制議会(立法議会)による[7 **立憲君主**]政をとる
- ・[8 **財産**]による制限選挙の実施→「[9 **有産者**]中心の議会に」

議会内の対立関係→革命の進行を望まない立憲君主派と穏和共和派の[10 **ジロンド**]派に

フランス革命における党派

- [11 **フイヤン**]派(立憲君主派)=[12 **ラファイエット**]やバルナーヴら(ミラボー1791没)
穏和な立憲君主制をめざす、[13 **上層市民**]や自由主義貴族が基盤
→[14 **1791年の憲法**]で革命の目的を達成したので15_ **これ以上の進展を望まない** _
- [16 **ジロンド**]派(穏健共和派)=ブリッソー、ロラン夫人ら
穏和な共和主義を主張
中産階級や[17 **商工業市民**]の利益を代弁→18_ **経済の自由** _が最優先課題
- [19 **ジャコバン**]派(急進共和派)=マラー、[20 **ロベスピエール**]、ダントンら
1792年以後、急進的共和主義へ(かつては立憲君主派のクラブ)
[21 **小市民**] (記者・弁護士ら)中心→[22 **都市民衆**]や農民の支持を受ける
革命の理念の追求などを重視

③1791,8 [23 **オーストリア**]と[24 **プロイセン**]、[25 **ピルニッツ**]宣言を発する

→ルイ16世救援を各国君主に呼びかける

④1792,4 ジロンド派内閣、対オーストリア戦争宣戦=[26 **フランス革命**]戦争勃発

→貴族中心のフランス軍は戦意にかける

⑤立法議会の呼びかけに各地より[27 **義勇軍**]の集結(国歌[28 **ラマルセイエーズ**]の成立)

↓
義勇軍とパリ民衆、王宮を襲撃し、王を幽閉する([29 **八月十日**]事件)

議会は[30 **王権の停止**]・[31 **立法**]議会解散と[32 **男子普通選挙**]にもとづく議会開催を決定

1791年になると革命は新たな様相をみせはじめていた。この年6月、国王一家が国外への逃亡をはかり捕えられると([33 **ヴァレンヌ**]事件)国民の王への感情は一気に悪化、これまで革命を主導してきた[34 **立憲君主**]派は革命の進行を望まなくなり革命派は分裂しはじめた。また革命の波及をおそれるオーストリアなどは8月[35 **ピルニッツ**]宣言を出し介入の動きを本格化させた。これにたいし[36 **立法**]議会で力をのびした穏健共和派である[37 **ジロンド**]派は、翌年春、オーストリアなどに宣戦、革命戦争がはじまった。

戦争は革命を一気に過激な方向へ導いた。全国から集まった[38 **義勇軍**]やパリ民衆は戦争遂行に非協力的な王の姿勢に反発して1792年[39 **7月14日**]王宮を襲撃、[40 **王権**]を停止するとともに[41 **立法**]議会を解散させ、[42 **普通**]選挙による新たな議会の設置を決定させた。

⑥[43 **ヴァルミー**]の戦いでフランス軍、プロイセンを破る。→以後優勢に

*ケー・テいわく「この日より世界史の新しい時代が始まった」

⑦1792,9 男子普通選挙による[44 **国民公会**] (**※議会!!**)開催

[45 **王政**]の廃止、[46 **共和**]政の樹立を宣言([47 **第一共和政**])

↓
議会内での急進共和主義の[48 **ジャコバン**]派([49 **山岳**]派)台頭

→革命のいっそうの進展をめざし、[50 **ジロンド**]派と対立

⑧国王を国民公会での裁判にかける→1793,1 [51 **ルイ16世**]の処刑

⑨1793,2 イギリス首相[52 **ピット**]、(第一回)[53 **対仏大同盟**]を提唱→成立

↓ フランス包囲網形成

フランスは54_ **全ヨーロッパ** _と、そして国内の農民反乱などと戦わねばならなくなる

←[55 **カトリック**]・王党派の扇動による

⑩物価高騰、買い占め・売り惜みの横行など経済混乱がすすむ。

↓
議会内の対立激化:自由経済の維持([56 **ジロンド**]派)←→経済の統制([57 **ジャコバン**]派)

→1793,6 [58 **ジャコバン**]派、パリ民衆の支持を得て[59 **ジロンド**]派追放

1792年9月、フランス軍が[60 **ヴァルミー**]の戦いでプロイセンに勝利するという熱狂のなか、普通選挙で招集された新たな議会である[61 **国民公会**]はただちに[62 **王**]政廃止と[63 **共和**]政成立を決議、翌年1月国王[64 **ルイ16世**]を処刑した。[65 **イギリス**]首相ピットのよびかけで第1回[66 **対仏大同盟**]を結成されると、フランスは混乱状態におちいった。とくに物価騰貴や食糧不足は都市民衆を苦しめ、民衆は適切な対応をとれない[67 **ジロンド**]派への不満をたかめていった。これを背景に[68 **ジャコバン**]派は1793年6月クーデターをおこしジロンド派を追放、独裁を開始した。

d. ジャコバン派の独裁

①ジャコバン独裁の成立=「小生産者の平等社会を求める」(指導者[69 **ロベスピエール**])

ア) 価格統制=[70 **最高価格**]令の導入→「恐怖」による物価沈静化政策

イ)[71 **封建的地代の無償**]廃止の実施、教会領・亡命貴族の土地の競売

ジャコバン政府は、これまでの封建領主の最大の財政基盤であり、1789年には[72 **有償**]で廃止するとされていた封建的地代([73 **年貢**]など)をすべて[74 **無償**]で廃止した。さらに教会や[75 **亡命貴族**]のもっていた土地を没収し[76 **競売**]した。こうしてフランスの農民は「自分の土地を所有する」[77 **自作農民**]になった。しかし土地を獲得した農民たちはその主要な願いが実現されたため、しだいに[78 **保守**]化、これ以上の革命の進行を[79 **望ま**]なくなっていた。こうしてフランスの人口の多くを占める農民たちはイギリスなどに比べ[80 **裕福**]となり、都市への人口流出も[81 **少な**]く、農民人口の多い[82 **農業**]国の性格を持ち続けることとなった。フランスの[83 **産業革命**]の進展が緩やかであったのは、こうした理由から[84 **労働力**]が手に入りやすかった点にあるといわれる。

ウ)さまざまな急進的改革の実施…1793年憲法([85 **ジャコバン**]憲法)制定→実施されず

[86 **徴兵**]令実施、[87 **革命**]暦制定、理性崇拜の宗教創始など

→キリスト教の否定 **農民反乱も発生**